

「扉」は開いて行くもの！

神奈川県横浜市
株式会社 NGU
地域密着型通所介護 生活維持向上倶楽部「扉」
代表 山出 貴宏

1 はじめに

当法人は、ご利用者を「メンバーさん」スタッフを「パートナー」と呼んでいます。事業所は居場所ではなく、活動の場。在宅サービスの為、居場所のご自宅。そのご自宅でご家族と一緒に暮らしていただけるために、「生活の営み」につながる関りを行っています。ご利用されている方々は、「仕事をしに来ている」「ボランティアに来ている」とイメージされる方が多く、皆で色々な活動することから「メンバーさん」、スタッフは、認知症や梗塞の後遺症・機能低下の心配がある方々と新たな生活の扉を開き共に歩むことから「パートナー」となっています。

「今を見つめ、先を考える」関りを主として、「じりつ」（自立・自律）への活動を行っています。介護保険には自立支援とありますが、その先の「生活の営み」から「福祉的じりつ」・「ケア的じりつ」を日々実践しています。

2 事例や取組の紹介

「持っている能力を最大限に発揮していただく」「出来る事は自分でやっていただく」ではなく、認知症ケア・介護技術の観点から「持っている能力」「潜在している能力」を適切に発揮していただいています。さらに、「福祉的じりつ」「ケア的じりつ」の2つのじりつ支援から、自己実現や生活への自信・役割につながりご自宅生活に良い成果が出ています。在宅サービスですから、メンバーさんの生活の姿からご家族も諦めない生活に繋がっています。

活動に、「脳トレ」や「レクリエーション」は基本行わないで、室内では生活動作の活動、屋外では地域交流や機能訓練に繋り、また脳の活性化につながっています。その結果、介護度の改善や、BPSD の改善につながっています。介護事業所のイメージや認知症の方のイメージが少しずつ変わってきています。門松作りなどメンバーさんの活動が有償ボランティアにつながってもいます。

メンバーさんも地域の一員です。近くのごみ収集所の掃除を行ったり、自由に事業所に

入ってきていただけるようにしている事で、地域の方から「おはよ～」や「ありがとう」と言われ、メンバーさんの活動はコミュニティーの一つにもなっているかと思います。メンバーさんの「生活の姿」が介護職の離職問題にも良い影響となりほぼ離職はない現状です。また、大々的な求人を出したことはありませんが、メンバーさんの活動を見た方から、こういう仕事をしたかったので働かせてほしいや、ここで学びたい・もう一度介護の仕事をしたいと思えたと言っていたり、事にもつながっています。

3 考察

開所後何年かは地域の方やケアマネジャーの方々から「要支援の方ばかりでしょ?」「認知症の方はいないでしょ?」「脳トレ、レクがない事業所なんてありえない」と言われ続けていました。当初は要支援のメンバーさんも数名いらっしゃいましたが、9割は要介護認定の方で平均介護度も3弱でした。そのほとんどの方が、他の事業所が続かなかった方々です。さらにはセラピストの方より、その対応はPTやOTの仕事だとも言われました。正直、この段階で「よっし!」と、メンバーさんの活動が間違っていないことを証明してくれている証と実感できました。

最近では、地域の方からは、「介護や認知症のイメージが変わった」や「私たちより元気」と言われたり、ケアマネジャーからは「サービスに繋がらない認知症の方を何とかしてください」や「生活不活性を何とかしてください」等と言われるようになりました。また、知り合いから伺ってとご家族から相談があったりしています。現在は平均介護度2.5 認知症自立度Ⅲa以上7割となっています。看取りの関りもしています。

全ては、メンバーさんの「生活の営み」・「生活している姿」がイメージを打ち砕いてくれていると思います。認知症ケア・「じりつ」支援は介護技術の根拠から見直し、思い・行動を引き出せ維持につながる事、全介護者やシステムを作るのではなく、「生活の営み」を継続して行けることが介護の専門性と言えるようになればと思います。

4 おわりに

全国から見学に来ていただけるようになってきました。「あそこだからできる」というシステム作りはしていません。今まで、介護職が学んできた介護技術を「根拠」から見直し、その方の力を適切に引き出せる関りから「考えるケア」に繋がってくれる人と事業所が少しでも多くなり、これまでの介護の常識が変わり、介護と言う仕事のすばらしさが伝わる事のきっかけになれば、メンバーさんの活動が成果の一つにもなると思っています。

「扉」とは、「戸に非ず」と書きます。一人でも多くのつながりで、「危ないから」ではなく、「もう一度自分で出来る」を実感していただき、「生活に自信」が取り戻せるように、共に歩み「扉」を開いて行けたらと思います。